2023（令和5）年度 部局マニフェスト
～私たちの組織使命と目標～

部局名	企画振興部
役　職	部長
氏　名	風隼　徳彰
連絡先	0595-22-9620(内線2740)

業績目標の達成状況
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No　4-4-①				
伊賀市地域公共交通計画に基づき、市民生活を支える移動手段の確保を図るため、交通事業者や地域と連携し、効果的で安定した交通サービスの提供に取り組みます。	・地域が愛着の持てる、地域の実情に応じた交通手段の導入	〈現在の状態〉 コロナ禍の影響や生活様式の変化などにより、令和2年度以降減少していたバス運輸人員が徐々に回復しつつある。 ↓ 〈達成目標〉 ・令和5年度の市内運行バスの利用者数が367,251人（令和4年度実績）以上となる。 ・島ヶ原行政バスの実証運行では、伊賀市地域公共交通計画に定めた事業評価基準（平均乗車数：2.1人以上、収支率：16%以上、乗客1人当たりの市負担額：1,140円以下）以上となる。 ※目標が達成した状態 利用者のニーズに合った交通手段が確立され、市民の移動手段が確保されている。 行政バスにおいて、新たな運行形態による実証運行が開始されている。	・市ホームページや広報いが、SNSなど、様々な媒体を活用し、市民啓発に努め利用促進に取り組む。 ・島ヶ原行政バス路線において、デマンド運行による実証運行を市と地域が一体となって運用を行う。 ・廃止代替バス路線沿線の各住民自治協議会で、個々の地域交通の課題に対する話し合いが行われる場を設定する。 ・利用者のニーズなど把握するため、バス乗り込み調査を実施する。	4	・様々な媒体で、利用促進啓発を進めており、特にコミュニティバス「にんまる」の乗車人数が増加した。 ・減便やスクールバス転換による減少要素がある中、市内運行バスの利用者数が369,619人となり、昨年度から増加した。 ・島ヶ原行政バス「ぐるり号」は、予約受付・配車業務を島ヶ原地域まちづくり協議会が担っており、地域と市が一体で運用を行っている。（評価基準となる平均乗車数2.4人となり、目標値を上回った。（令和5年8月30日～令和6年3月29日）
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No　4-4-②				
伊賀市地域公共交通計画に基づき、市民生活を支える移動手段の確保を図るため、交通事業者や地域と連携し、効果的で安定した交通サービスの提供に取り組みます。	・鉄道網の活性化	〈現在の状態〉 ・近鉄、JR西日本とも、コロナ禍で減少した利用者数が徐々に回復しつつあるが、コロナ禍前の状況には戻っていない。 ・府県や沿線自治体、JR西日本との課題解決に向けた協議、連携を進めている。 ↓ 〈達成目標〉 ・JR関西本線の活性化・利用促進のための、関係自治体と連携した取組を2つ以上実施する。 ・JR関西本線と接続する伊賀鉄道伊賀線、JR草津線との連携した取組を1つ以上実施する。 ※目標が達成した状態 関係自治体と共に市民への利用促進が行われている。 伊賀鉄道と連動した利用促進の取組が進められている。	・市民や関係団体、沿線自治体、地域、企業と連携し、利用促進に対する鉄道事業者との取組を強化する。 ・鉄道ネットワークを意識した線区や鉄道事業者同士の連携を進める。 ・市民に対し、鉄道が地域の財産として認識されるよう様々な機会や広報媒体を通じて啓発を進める。 ・近鉄やJR西日本との連携により、近鉄大阪線、JR関西本線、JR草津線を利用した都市圏からの誘客する取組を行う。	4	・JR関西本線の活性化や利用促進に向けた関係自治体との取組みとして、いこか連携事業による関西本線、草津線を活用したウォーキング事業を開催し、予定した参加人員を満たすイベントとなった。 ・三重県、亀山市と連携し、京都府において関西本線の啓発イベントを実施した。 ・伊賀鉄道が実施する「伊賀線まつり」、「伊賀鉄マルシェ」にJR西日本が参加し、結節する線区として双方の啓発を行った。 ・木津亀山間活性化同盟会による笠置町でのウォーキングイベントがJRフリーペーパー「西ナビ」に掲載されるなど関西本線沿線PRの紙面掲載などを実施した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No　4-4-③					
伊賀市地域公共交通計画に基づき、市民生活を支える移動手段の確保を図るため、交通事業者や地域と連携し、効果的で安定した交通サービスの提供に取り組みます。	・持続可能な伊賀線運営体制の構築	〈現在の状態〉 コロナ禍の影響や生活様式の変化により減少していた運輸人員が、徐々に回復しつつあるが、コロナ禍前の状況には戻っていない。 人件費・動力費（電力料）などの高騰の影響により運営経費が増加傾向にある。 ↓ 〈達成目標〉 ・令和5年度の伊賀鉄道年間輸送人員数が1,161,497人（令和4年度実績）以上となる。 ・伊賀鉄道運営費等補助金を当初予算内（94,890千円）で執行する。 ※目標が達成した状態 利用促進施策に沿った取り組みが着実に実施されている。 運営に係る新たな増収施策や、経費削減施策が図られている。	・伊賀線まつりなどのイベントを通じ、地域資源としての魅力を発信する。 ・利便性向上と利用者増を図るため、ICカードの導入を行い、広く周知、啓発を行う。 ・伊賀鉄道の安定した運営が継続できるよう、料金体系の見直し検討や、伊賀鉄道・近鉄・伊賀市の3者による体制の強化を図る。 ・鉄道事業再構築実施計画の計画期間後を見据えた、伊賀線のあり方検討を始める。	▶	3	・県内外の様々なイベントに多数参加し、地域資源としての魅力を発信するPR活動を行った。 ・輸送人員については、観光客などによる定期外の人員が増加したが、コロナ禍による通勤形態の変化、市内高校の生徒数が減少している影響などを受けて、通勤、通学定期による人員が減少した。（令和5年度見込約118万人：令和4年度比全体96.6%：定期外107.8%：通勤92.2%：通学93.0%） ・人件費や電気代等の高騰により、伊賀鉄道運営費等補助金について、追加補正予算が必要となった。 ・ICカードの導入が完了した。
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No　6-3-①					
伊賀市文化振興プランに基づき、伊賀市が持つ文化資源を活かしながら、市民の文化・芸術の振興に取り組み、郷土愛を育むとともに、心豊かな人づくり、まちづくりを進めます。	・伊賀市文化振興プランの推進 ・岸宏子記念伊賀文学館の整備と活用 ・美術博物館（芭蕉翁記念館含）の整備	〈現在の状態〉 コロナ禍等で文化振興プランの推進に向けた取り組みが不十分であった。 岸宏子記念伊賀文学館整備工事に着手した。 市が所蔵する資料などが適切に保管できていない。 ↓ 〈達成目標〉 ・文化芸術の満足度が54.5%（令和4年度）以上となる。 ・岸宏子記念伊賀文学館の開館により、図書館などと連携した自主事業が始まっている。 ・市の所蔵作品等を適切に保管し、活用するための美術博物館建設の基本的な考え方が整理されている。 ※目標が達成した状態 文化芸術に触れる機会がすべての人にある。	・文化振興プランを推進するため、各種団体の意見交換会の開催や各団体へのヒアリングなどを行う。 ・岸宏子記念伊賀文学館の指定管理者を選定し、図書館等と連携した事業を検討する。 ・美術博物館建設準備委員会により、施設建設に向けた検討を行う。	▶	3	・まちづくりアンケートの文化芸術満足度が46.6%に低下した。 ・岸宏子記念伊賀文学館を12月に開館し、伊賀文学振興会や上野図書館と連携した事業を行った。 ・美術博物館の基本的な考え方を示した基本構想中間案を作成し、パブリックコメントを実施した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No　6-3-②					
伊賀市文化振興プランに基づき、伊賀市が持つ文化資源を活かしながら、市民の文化・芸術の振興に取り組み、郷土愛を育むとともに、心豊かな人づくり、まちづくりを進めます。	・文化ホール等（伊賀市文化会館、青山ホール、さんさんホール、ミュージアム青山讃頌舎）の活用	〈現在の状態〉 コロナ禍の影響で文化ホール等の利用者数が減少している。 文化会館、青山ホールの長寿命化計画を策定した。 ↓ 〈達成目標〉 ・文化ホール等（伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホール、ミュージアム青山讃頌舎）の利用者が、66,175人以上となる。（令和4年度実績：青山ホールのみ令和3年度実績） ※目標が達成した状態 公有施設で文化芸術に触れる選択肢が増えている。	・指定管理者と連携し、市内小中学校などへのアウトリーチ事業の支援による文化ホール利用へのきっかけ作りを行うほか、企画検討、効果的な情報発信を行う。 ・文化ホールの長寿命化計画に基づき、財源を確保しながら、改修を進める。	▶	4	・文化ホール等の利用者が80,682人となり、前年度実績を上回った。 （伊賀市文化会館（令和4年：45,530人→令和5年：56,930人）、あやま文化センター（令和4年：11,581人→令和5年：10,052人）、青山ホール（令和3年：7,081人→令和5年：11,474人）、ミュージアム青山讃頌舎（令和4年：1,983人→令和5年：2,226人）
◎部局目標6	関連の施策・基本事業No　6-3-③					
伊賀市文化振興プランに基づき、伊賀市が持つ文化資源を活かしながら、市民の文化・芸術の振興に取り組み、郷土愛を育むとともに、心豊かな人づくり、まちづくりを進めます。	・芭蕉翁顕彰事業（芭蕉翁生誕380年記念事業含む）の推進	〈現在の状態〉 芭蕉翁生誕380年記念事業実行委員会の委員を募集している。 蓑虫庵屋根修復工事が完了した。 ↓ 〈達成目標〉 ・芭蕉翁生誕380年記念事業を機に、芭蕉翁の功績や理念を広く国内外に発信している。 ・蓑虫庵内施設の改修工事等が完了している。 ※目標が達成した状態 市民の芭蕉翁顕彰の意識が高まり、シビックプライドが醸成され、芭蕉翁生誕地・伊賀市の全国的な認知度が向上する。	・芭蕉翁生誕380年記念事業実行委員会を設置し、令和5～6年の事業計画を立案する。 ・俳句ユネスコ登録推進協議会加盟団体等と連携し、令和6年1月のオープニングイベント開催から関連イベントを実施する。 ・SNSを活用するなど、効果的な情報発信手法を検討する。 ・蓑虫庵の芭蕉堂茅葺の葺替、月見堂修繕、庭園整備を行う。	▶	4	・芭蕉翁生誕380年記念事業実行委員会を中心に記念事業を企画し、1月28日（日）にオープニングイベントを実施した。 ・記念事業を盛りあげ、芭蕉翁顕彰の機運を高めるため、2期に分けて協賛事業を募集した。 ・記念事業公式ポスターやロゴを作成し、俳句ユネスコ登録推進協議会加盟団体等に送付し、広く情報発信を行った。 ・蓑虫庵内の月見堂・待合・芭蕉堂屋根・庭園の改修工事が完了した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標7	関連の施策・基本事業No　6-5-①					
「すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らせる」まちづくりを進めます。	・スポーツに親しむ機会の創出、活動の支援	〈現在の状態〉 少子高齢化やコロナ禍などで、地域等でのスポーツ実施機会やスポーツを実施する市民が減少している。 ↓ 〈達成目標〉 ・伊賀上野シティマラソンの参加者が2,100人以上となる。（令和4年度1,559人） ・成人の週1回以上スポーツ実施率が初年度値28.8%以上となる。 ・団体事務局の移管に向けた、検討を行う。 ※目標が達成した状態 市民が気軽にスポーツに親しむことができ、健康で豊かな生活が営める。	・「伊賀市スポーツ推進委員派遣事業」を創設し、地域や企業などが実施するレクリエーション大会等へスポーツ推進員を指導者として派遣する。 ・スポーツへの関心や主体的な取り組みを高めるため、市ホームページや広報いが、SNSなど、様々な媒体を活用し、情報発信を行う。 ・団体事務局の移管について、各種団体との検討会を開催する。	▶	3	・伊賀上野シティマラソンでは、5キロ部門の復活やブース出展等開催内容を見直し、2,140名のエントリーとなった。 ・気軽にスポーツに親しみ、関心を高めるため、地域でのレクレーション行事実施時の指導者としてスポーツ推進員を派遣するとともに、広報いがへのコラム記事掲載を6回実施した。 ・スポーツ実施率が13.8%に向上した。（数値把握の方法をまちづくりアンケートに変更（前年度12.2%）） ・スポーツ団体の主体的な運営が図られるよう、市全体のスポーツ振興のためのイメージを検証し、スポーツ協会などと意見交換を行った。
◎部局目標8	関連の施策・基本事業No　6-5-②					
「すべての市民が生活の中でスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らせる」まちづくりを進めます。	・安全で利用しやすいスポーツ環境の提供	〈現在の状態〉 施設の老朽化や、利用者数の少ない類似施設が点在している。 アーバンスポーツ施設の整備に向けて、検討を行っている。 ↓ 〈達成目標〉 ・スポーツ施設稼働率が49.5%（令和4年度実績）以上となる。 ・アーバンスポーツ施設の整備に着手している。 ※目標が達成した状態 スポーツ施設の長寿命化対策や必要な施設が整備され、安全で快適なスポーツ環境が提供されている。	・スポーツ施設再編整備計画に基づき、スポーツ施設廃止後の利活用や利便性の向上など、地域や利用団体などの意見を聴取し、その実施行程を策定する。 ・関係競技団体や施設管理者等との意見交換などを行い、施設の整備や改修などを行う。 ・スポーツ推進計画やスポーツ施設再編整備計画の進行管理を、伊賀市スポーツ推進審議会で行う。	▶	3	・スポーツ施設稼働率が49.74%に向上した。 ・再編整備計画に基づき、施設改修や維持管理工事を予定どおり施工し、老朽化が進み利用が低調である青山テニスコートの廃止を行った。 ・アーバンスポーツの施設整備に向けて、必要な資器材の調達等を行い実証実験を行っている。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標９	関連の施策・基本事業No　6-6-①					
「伊賀市らしさ」にこだわった魅力の発信や次世代の人材の育成などに取り組み、地域の活性化に繋げます。	・伊賀市が持つさまざまな魅力の発信	〈現在の状態〉 個人版ふるさと納税の受入件数が18,348件（R3）から16,038件（R4）、同受入金額が725,200千円（R3）から643,168千円（R4）と1割程度減少した。 ↓ 〈達成目標〉 ふるさと納税寄付金額が725,200千円（令和3年度実績）以上となる。 ※目標が達成した状態 伊賀市の魅力が発信され、ブランド力が向上している。	・新たな返礼品の開拓や既存返礼品の掲載写真、サムネイルなどについて見直しを行う。 ・前年度末から新たにキャッシュレス商品券等の返礼品を追加したことから、それらのPRを市ホームページや広報いが、SNSなど、様々な媒体を活用して行い現地納税の推進を行う。 ・寄附が毎年、10月から12月に集中するため、それを見据えた広告を継続的に行う。	▶	4	・目標としていた個人版ふるさと納税受入額が令和3年度の数値（730,000千円）を下回る見込みである。 ・企業版ふるさと納税について、市の地方創生プロジェクトに賛同いただいた寄附があった。 ・年間を通して、返礼品画像の見直しや、PRを継続的に行った。
◎部局目標１０	関連の施策・基本事業No　6-6-②					
「伊賀市らしさ」にこだわった魅力の発信や次世代の人材の育成などに取り組み、地域の活性化に繋げます。	・伊賀市の将来を担う人材の育成	〈現在の状態〉 若者会議メンバーの市政への参画意識がさらに高まり、市関連事業への参画が進んでいる。 高校連携事業について、事業実施に伴い各高校と行政との連携が進んでいる。 ↓ 〈達成目標〉 ・若者会議の行政への参画事業数が6事業（令和4年度実績）以上となる。 ・高校連携事業対象校生徒アンケートの「高校又は大学等卒業後の生活、勤務地」について、「出身地」の回答率が18.7%（令和4年度実績）以上となる。 ※目標が達成した状態 若者会議の活動状況が市民に認知され、若者会議経験者が地域貢献活動を行っている。 高校生が、若者会議などに参画し、伊賀市への関係性を継続し続けている。	・若者会議の活動について、新たに専用ホームページの立ち上げを行う。 ・現在行っている、SNSでの発信、広報いが9月及び3月号での特集記事など、活動の見える化を行う。 ・高校連携の活動について、広報いが9月及び3月号で活動内容の発信を行う。 ・各高校の活動について、若者会議のメンバーが取材等を行いSNS等で発信を行う。	▶	4	・庁内における若者会議の認知度が向上し、事業参画を募集する所属が増加しつつあり、若者会議の行政への参画事業数が11事業（前年度6事業）に増加した。 ・参画事業数が増加したことにより、若者会議メンバーの事業参画意識が向上した。 ・アンケート結果については、フィールドワーク等高校との連携事業を実施したが、「出身地」の回答率が15.5%（前年度18.7%）に低下した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標11	関連の施策・基本事業No　6-6-③					
・「伊賀市らしさ」にこだわった魅力の発信や次世代の人材の育成などに取り組み、地域の活性化に繋げます。	・移住交流、定住の促進	〈現在の状態〉 令和4年度の移住相談件数が延べ1,463件、移住者数45世帯88人となっている。 令和3年度までの移住者実績が、5年連続三重県1位（住みたい田舎ベストランキング）となっている。 ↓ 〈達成目標〉 ・令和5年度の移住相談件数が1,463件、移住者数が45世帯88人（いずれも令和4年度実績）以上となる。 ※目標が達成した状態 移住者が定住し、地域を担う人材として地域コミュニティ活動に参画している。	・移住コンシェルジュによるきめ細かな移住相談を実施すると共に、東京、大阪での移住相談会への参加。 ・オンライン相談の実施 ・HPの見直しやSNSによる情報の発信 ・奨学金等返還支援金制度の周知を行い、生産年齢世代の移住者確保に努める。 ・新たな移住者（雇用者）確保に向けて、市内各企業を訪問し、本市の移住施策の案内を行うなど、企業との連携強化に努める。	▶	3	・東京、大阪での相談会の実施や新たなSNSでの情報発信等により、相談件数1,772件、新規相談者数295件（前年度220件）、移住者数が98人に向上した。
◎部局目標12	関連の施策・基本事業No　7-4-①					
地域課題、人口減少に対応するため、府県境を越えた近隣自治体との広域連携に取り組みます。	・伊賀山城南東大和定住自立圏共生ビジョンの推進	〈現在の状態〉 ①広域連携の満足度が下がった。50.4⇒45.3 ②市内外に向けた情報発信や、若者世代をはじめとする住民間交流など、分野を超えた取組が進んでいない。 ③定住自立圏事業として発信されている目に見える取組が少ない。 ↓ 〈達成目標〉 ①満足度を45.3%（令和4年度実績）以上とする。 ②分野を超えた情報発信や交流が図られ、高校越境入学の対象が拡大している。 ③後援・冠事業を5件以上とする。（令和4年度2件） ※目標が達成した状態 「広域連携」に対する住民の理解が深まり、満足度が上昇している。	【進行管理】 ・連携市町村長による推進会議を開催する。 ・圏域住民等によるビジョン懇談会を開催する。 ・事業シート（実施計画・実績表）を作成し、公表する。 【具体的な取り組み】 ・関西SDGsを活用した情報共有・発信を行う。 ・高校越境入学実現に向けた関係機関との最終調整、周知・啓発を行う。 ・幼少期からの一体感醸成に関する事業を行う。 ・ロゴマークを効果的に活用する。 ・後援等の手続きを簡素化する。	▶	4	・府県境を越えた定住自立圏の連携強化に努めた。 ①満足度アップに向け、会議等で成果や課題を共有し、事業シートを公表した。 ②高校越境入学を実現した。 ③関西SDGs等による情報発信や圏域体験学習等の後援・冠事業が6事業となり、前年度から増加した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標13	関連の施策・基本事業No　7-4-②					
地域課題、人口減少に対応するため、府県境を越えた近隣自治体との広域連携に取り組みます。	・三重県及び近隣府県並びに隣接市町村との連携推進	〈現在の状態〉 ①広域連携の満足度が下がった。50.4⇒45.3 ②ご当地ナンバーが実現していない。 ③いこか連携の具体的な取り組みが少ない。（令和4年度1件） ④名張市に定住自立圏への参画を呼び掛けるとともに、奈良市月ヶ瀬地区との連携や交流手法を検討している。 ⑤関西SDGsへの参画が実現したものの、情報共有にとどまっている。 ↓ 〈達成目標〉 ①満足度を45.3%（令和4年度実績）以上とする。 ②ご当地ナンバー要件緩和の要望を国県に届けている。 ③いこか連携の取組を2件以上とする。（令和4年度1件） ④名張市や奈良市月ヶ瀬地区との情報共有ができている。 ⑤関西SDGsへの情報発信を2件以上行う。 ※目標が達成した状態 「広域連携」に対する住民の理解が深まり、満足度が上昇している。	・ご当地ナンバーの要件緩和を求め、国県等、関係機関に働きかける。 ・いこか連携の具体的な取組を増やす。 ・名張市や奈良市月ヶ瀬地区と地域課題を共有する機会を設ける。 ・関西SDGsプラットホームを活用する。	▶	3	・近隣自治体との連携強化に努めた。 ①まちづくりアンケートの満足度が41.2%に低下した。 ②ご当地ナンバー実現に向けて、県への要望に加え、市長会を通じ、国土交通省へも声を届けた。 ③いこか連携は、2件（交通、観光）の事業に取り組んだ。（1件（観光）は雨天中止） ④新たな連携を構築すべく、三重県、名張市、奈良市など近隣自治体等との協議・調整を進めた。 ⑤関西SDGs等による情報発信を5件実施した。
◎部局目標14	関連の施策・基本事業No　－					
「『ひとが輝く　地域輝く』伊賀市」の実現に向けて「こども・くらし・にぎわい」を重視し、市政のバージョンアップや「誇れる・選ばれる伊賀市」の実現に向けて、オール伊賀市で取り組みます。	・自治基本条例の見直し検討	〈現在の状態〉 支所のあり方見直しによる、令和4年3月の条例一部改正後も引き続き見直し検討を行っている。 ↓ 〈達成目標〉 ・審議会より見直し検討の結果が答申されている。 ※目標が達成した状態 審議会答申を踏まえ、必要な手続きが進められている。	【進め方】 ①見直し検討を引き続き、条例審議会と庁内検討部会を中心に進める。 ②令和5年11月までに審議会から答申が示される。 ③答申内容を踏まえ見直しが必要となれば、パブリックコメント等により市民の意見を確認したうえで、条例改正手続きを進める。	▶	4	・自治基本条例の見直し検討を進めた。 ・審議会と検討部会を中心に検討を進め、令和5年10月に審議会からの答申を受理した。 ・見直しが必要との答申を受け、議会に説明し地域の声を聴取した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段		達成状況（自己評価）	理由
◎部局目標15	関連の施策・基本事業No　－					
「『ひとが輝く　地域輝く』伊賀市」の実現に向けて「こども・くらし・にぎわい」を重視し、市政のバージョンアップや「誇れる・選ばれる伊賀市」の実現に向けて、オール伊賀市で取り組みます。	・総合計画の進行管理 ・次期総合計画の策定	〈現在の状態〉 ①アンケートの回答数が減少した。939⇒741件 ②満足度の平均値が低下した。52.6⇒49.3% ③次期計画の策定方針を示す必要がある。 ↓ 〈達成目標〉 ①アンケート回答数を741件（令和4年度実績）以上とする。 ②満足度平均値を50.0%以上とする。 ③策定方針を公表している。 ※目標が達成した状態 ①アンケートの回答数が前年より増えている。 ②市民の満足度が上昇している。 ③めざす姿を共有し、計画策定作業を進められている。	①SNSやeモニターをこれまで以上に活用する。 ②各種評価シートを積極的に公表し、進行管理のしくみの見える化を進める。 ③次期計画の方針を策定するまでに、現計画の課題整理や若い世代と課題を共有する場をつくる。	▶	3	・現行計画の進行管理とともに、次期計画の策定作業を進めた。 ①②まちづくりアンケートの回答数が990件に、満足度平均値が50.8%（前年度49.3%）へ向上した。 ③策定方針案について、12/18本部会議を開催し、1/16全協で説明後公表し、パブリックコメントを実施した。